

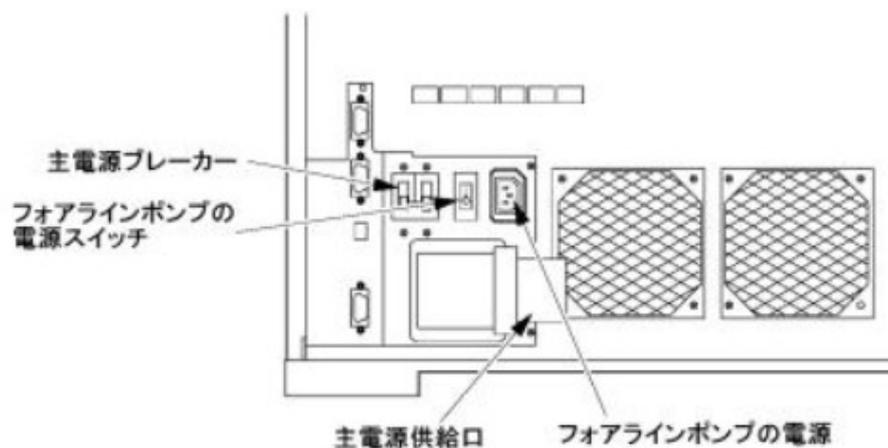
ICPMS の起動方法

フォアラインポンプ（RP）の電源コード、真空ホース、Ar ガスチューブ、冷却水チューブ、コンピュータと本装置をつなぐ LAN ケーブルをそれぞれ適切に接続されていることを確認します。

フォアラインポンプ（RP）のオイル量、フォアラインポンプ（RP）自体のスイッチがオンになっていることを確認します。

ICPMS 背面の主電源ブレーカを上側に上げ、オンにします。

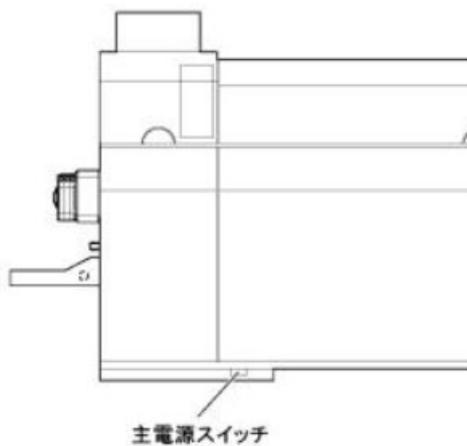
フォアラインポンプ（RP）用の電源スイッチ（赤いブレーカー）は上側が押されていることを確認します。



下記の写真の状態になっていることを確認します。



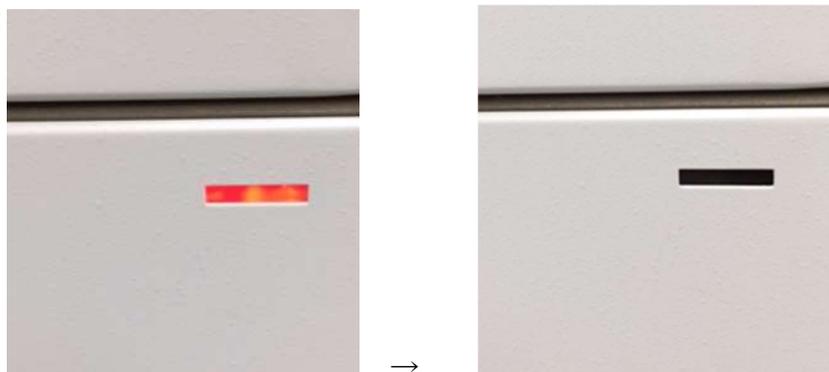
ICPMS 前面の主電源スイッチをオンにします。



緑のLEDが点灯します。



ICPMS 本体右上のLED インジケータが赤く点灯します。



数分後に消灯します。

ソフトウェアのバージョンによって、真空オンの方法が異なります。

MassHunter G7201A/B の場合

コンピュータを起動し、MassHunter（ICPMS 機器コントロール）を起動します。

ハードウェア → メインフレーム ICPMS のイラストをクリックして、真空オンをクリックします。（停止モードの時は真空オン、スタンバイモードの時は真空オフの表示です。）



MassHunter G7201C の場合

コンピュータを起動し、MassHunter（ICPMS 機器コントロール）を起動します。

ハードウェアのガジェット 右小さい下矢印をクリックして、真空オンをクリックします。



確認ダイアログボックスが表示されるので、はい をクリックします。

いずれのソフトウェアでも、スタンバイシーケンスが開始します。

ICPMS 本体右上にある LED のインジケータがオレンジに点滅し始めます。（停止モード→スタンバイモードへ移行中）

フォアラインポンプ（RP）が動き出し、バックラインバルブが開きます。IFBK 圧力が 20Pa 以下、真空チャンバが適切な圧力 アナライザー圧力 (5×10^{-4} Pa 以下) に到達すると、LED のインジケータがオレンジ色に点灯します。（スタンバイモード）

真空チャンバを長い時間、大気圧状態にしておいた場合は、スタンバイモードになるまでの時間はより長くかかります。

MassHunter で機器ステータスを表示させていれば、スタンバイモード時は、[スタンバイ] と表示されます。



【ソフトウェアを起動せず、真空をオンにする方法】

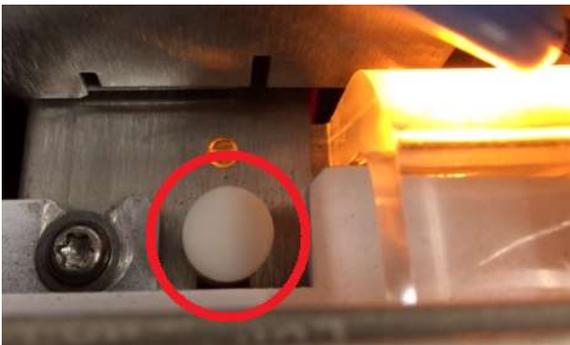
真空オン/オフは ICPMS 本体からも操作可能です。

ICPMS 本体の右側の大カバーを開けると、本体右上にある LED のインジケータ（スタンバイモード時はオレンジに点灯）の近くに白く丸い押しボタンスイッチがあります。

停止モード時に、このボタンスイッチを長押しします。LED のインジケータがオレンジに点滅し始めます。（停止モード→スタンバイモードへ移行中）

この状態になれば、真空オン動作が起動したことになります。ボタンから指を離してください。

LED のインジケータがオレンジ色に点灯すれば、スタンバイモードです。



【トラブルシューティング】

MassHunter 上で、[真空オン]がグレーアウトし、クリックできない状態。

→ PC と ICPMS 本体との間の通信ができていない状態です。

ハードウェア → メインフレーム ICPMS のイラストをクリックして、通信をクリックします。



[通信の設定]のダイアログボックスが表示されます。

オフラインが選択されている場合は、オンラインをクリックし、OK を押してください。

